



笠間小中高合同あいさつ運動

11月1日（水）の朝の時間に茨城県教育月間に伴う笠間小中高合同あいさつ運動を行いました。小学生から高校生までが同じ場所と一緒にあいさつを交わすのは、とてもめずらしい取組です。稲垣先生引率のもと、1年生から3年生までの生活安全委員会の生徒が笠間小学校へ行き、実施しました。笠間小学生と笠間中学生、笠間高校生が明るい笑顔であいさつを交わす姿は、とてもすがすがしいものでした。



第9,10回「行動褒賞」の授与

10月17日（火）に第9回、10回の行動褒賞の授与を行いました。2年1組の鈴木（環）さんと來栖さんは、同じクラスの友人が足を骨折して松葉づえ生活をしているとき、部活動や教室を移動するとき荷物を持ってあげるなど生活面でのサポートをしてくれたと担任の源氏先生から推薦がありました。

また、2年1組の車田さん、稲田さん、青木さん、仲田さん、梅原さんの5名は、給食当番でないときも身だしなみを整え、自主的にいち早く配膳準備に取り組んだり、先生や友人の給食を運んでくれたりしていると担任の源氏先生から推薦がありました。

笠間中生に優しい行動が広がっているのは、本当に素晴らしいことです。



笠中生にすすめたい一冊の本⑪

今回は、稲見秀幸の「君と富良野を浴びている」を紹介します。稲見秀幸は中学校の国語の先生だった方で笠間市でも勤務されていました。この本は「君を富良野へ連れていく」「富良野へ君に逢いに行く」に続く3部作です。

今回も倉本聰原作の「北の国から」の文章をはさみながら、稲見先生の日常生活での思いが綴られていきます。教員時代の出来事だったり、倉本聰本人との思い出だったり、家族との関わりだったり時代や季節の変化とともに書かれています。中でも家族との関わりは、誰もが共感できることと思います。私は、特に孫のリク君とのやり取りが好きです。私には、まだ一人も孫がいないので、もし孫ができれば同じようなことが起きるのかなと想像しながら読んでいます。

私が稲見先生の「君を富良野へ連れていく」と初めて出会ったのは、友部第二中学校の校長の時でした。その時も学校だよりで紹介させてもらいました。「生きている中で大切にしたいこと」についてゆったり考えさせてくれる一冊です。

※このコーナーで紹介した本は、図書室に置いてあります。

